

1107A7 29 de Enero

DIRECCION:  
USPALLATA 981  
U. T. 23-7051, B. O.

EL "ARGENTIN DJIJO"

AÑO XV

CORREO ARGENTINO  
FRANQUEO PAGADO  
TARIFA REDUCIDA  
CONCESION 718

大阪商船會社指定  
三等乗船切符仲次所  
大阪商船會社船客御送迎に就  
ては懇切迅速に御便宜を御取計  
申可候間御遠慮なく下説へ  
御用命賜度候



船舶御用商  
森川塩澤商店  
PASSEO COLON 470  
U. T. 33-4171  
U. T. 33-4998

OSAKA SHOSEN KAISHA

Av. Roque Saenz Peña 616 U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 3565  
2º PISO COOPERATIVA CENTRAL 2047 BUENOS AIRES

●北米パナマ經由日本行(一年十四回)横濱まで 四十七日 (A型) 五ノのすあいれ十九  
●アフリカ經由日本行「毎月一回」門司まで 六十日 あふりか九 ありぞえ九 あらびや九  
●南米經由日本行「毎月一回」門司まで 六十日 あふりか九 ありぞえ九 あらびや九

●小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七才未満「四分  
ノ一」満三才未満無賃、満四才以上亞國生れの方は、亞國旅券必要  
●乗船支拂 日本行運賃は全部米貨支拂です。一等は乗船切符買求め當日の  
換算率、三等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り亞貨にて  
お拂ひ願ひます。一等は定額運賃(割の出國税が掛ります)。(二等は無税)  
●歸國御手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船中露  
の健康診断を受け下さい。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣  
日本より御呼寄の便法當地にて乗船支拂あれば乗船券引換証書上ま  
す。但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄証明書持参下さい  
●鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省汽車乗換  
の協同船便の代りに乗車券贈呈  
●弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする場合等社内航線切  
符贈呈(但し沖繩、參等五割引)

船種	日本行	日本より
A型	米貨 四五〇弗 特三(洋) 一五七弗 特三(和) 一四三弗	米貨 九三弗 洋食米貨 三七弗 和食 二百廿五弗
B型	全 四〇九弗 特三(洋) 一四三弗 特三(和) 一四三弗	全 八五弗 洋食米貨 三七弗 和食 二百廿五弗
南阿船	全 三三二弗	全 七七弗



大阪商船

亞市然丁時報

DIARIO JAPONES

Director: T. MIDZUNO  
Redacción: USPALLATA 981  
U. T. 23, Buen Orden 7051  
BUENOS AIRES

TARIFA DE SUBSCRIPCION  
Un mes ..... \$ 2.-  
Tres meses ..... " 6.-  
Seis meses ..... " 12.-  
Un año ..... " 24.-

YAMASHITA LINE

FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE  
AGENT  
CHADWICK, WEIR & Cía.

25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

"K" LINE

KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.  
KOBE, JAPAN

Representantes  
J. E. TURNER & Co. S. A.  
RECONQUISTA 325 U. T. 31-3491-3

キリスト教青年ホーム  
ペンシラン 定期又は一時的  
聖書の研究 毎土曜日午後八  
時より御来会自由  
郵便物取次 未仕致します  
守屋保吉

Caseros 1983  
U. T. 23-9872

Semillería EL COLONO

ABONOS :: HORMIGUCIDAS :: INSECTICIDAS  
IMPLEMENTOS AGRICOLAS  
SEMILLAS Y PLANTAS

J. S. GAGO

IMPORTACION DE SEMILLAS  
EN GENERAL  
HERRAMIENTAS PARA JARDINES  
GENERAL HORNOS 58  
U. T. 23 BUEN ORDEN 7101  
BUENOS AIRES

PIDA CATALOGO GENERAL

川崎汽船西廻世界一周航路  
▲横濱比律賓海峽植民地印度及紅海沿岸諸  
港又文麗河經由加奈陀北米伯刺西爾亞爾諸丁  
▲亞爾諸丁伯刺西爾巴奈馬運河經由太平洋  
岸諸港 橫濱  
優秀船八隻就航  
日本向け貨物迅速丁寧取扱致します  
川崎汽船株式會社

TALLER  
MECANICO

de G. GONZALEZ

プラシヤ機  
カルデーの  
修繕其他

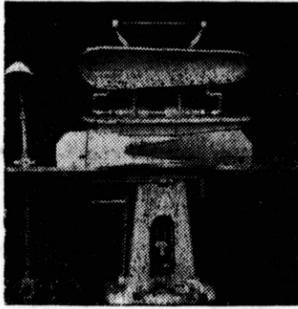
SAN JOSE 220  
U. T. 38 - 5923

時計修繕  
電話で御一報次第参上致します  
市内カピトル街一七七八  
電話(五二)〇九三三  
守屋利夫

CABILDO 1178  
U. T. 52-0933

邦人間唯一の  
染色工場  
設備完全  
仕事入念  
齋藤染色工場

BELGRANO 3061  
U. T. 45 - LORIA 5442



新案  
TIP TOP  
カルデーラセント  
リノガ・シエラヨ  
のプラシヤ機  
製造販賣修繕  
高橋秀雄

Av. La Plata 1416  
U. T. 60 - 9421

Foto TERAKAWA

FLORIDA 580  
U. T. 31 - 8571

晝夜撮影  
出張にも應じます  
寺川寫眞館

TOYOKEN

25 DE MAYO 356 U. T. 31 - 0739

東洋軒  
料理部  
純日本料理  
折詰弁当  
丼物一切種類  
晝食  
配達致し  
相変らず  
市引立を

Masajista Japonés

SEGUROLA 1992-6  
U. T. 67-4591

山田忠重  
日本式マッサージ鍼灸  
リウマチ、神経痛、呼吸器病、  
胃腸病その他一切の疾病、幼少  
日本膏薬は西坂商店でも  
取扱っております

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA  
INDUSTRIA ARGENTINA 1933-34

BILLARES BRUNSWICK  
BANDAS MONARCH  
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informes



Cia. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900  
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TACUARI 580  
U. T. 34 - 1344

親切丁寧  
顧客本意  
浴室完備  
まつや旅館  
料理任し、井物一切  
日本菓子製造致す  
の会食に應じます

だるま亭  
井物一品料理仕出し  
すし、おぼろ、銀頭賣出し  
御婚祝御誕生の祝儀  
御注文に應じます  
松田清市

BOLIVAR 1556  
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA



カフエーバー  
レストラント用の  
メタル製品の  
御用命は日本人間  
に絶大の信用ある  
BRAUN  
月曜日の御注文に  
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO  
CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

ALMACEN  
NISHISAKA

AUSTRALIA 1101  
U. T. 21-2915

醤油味噌  
澤巻香物 製造販賣  
日本食料品輸入販賣  
船中万巻油  
値段勉強配達迅速  
西坂實業商店

DANCING  
COLON  
de MANOLO GOMEZ  
LEANDRO N. ALEM 622  
U. T. 31-1828

御酒其他の御飲料  
品質本位、真正正銘保証付  
タシシタ  
コロシ  
タシゴのリズムに合したホルデー  
ニヤのサーピスで南国情緒を  
満喫あれ

領事館銀行、船会社と近く  
御乗船御下船の便  
御下宿  
御旅館  
地方へ出立の際は是非御立寄願います  
昭和館

25 DE MAYO 330  
U. T. 31 - 5145  
BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケマドールレス及び  
タシケスア・フレシオン  
製作販賣  
諸種ケマドール修繕、部分品  
販賣、日本人間にも多数顧客  
在りし仕事は入念迅速、電話  
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西  
堂ニホツニ

種各他其、刺名筒封等便  
寸寸上款命用御拘不、少多

総川北



### 蔣の財政的悩み愈々深刻 廣東防備の万全期し難し

#### 人心日々に國府を離る

(香港廿七日) 第四路軍總司令余漢謀は蔣介石の命により廣東省内外の軍管區に分ち民衆自衛團の結成に狂奔しつゝ、蔣の財政的不足は極度に達し一ヶ月経費二百八十萬元が昨年十月末七十三萬元に大削減され、軍費も皆ては百五十萬元のものが約四分の一に減少してゐるため官吏、軍人は五割乃至六割方減俸され、亦々國民政府の南京撤退後は蔣介石の實力に對する懷疑の念が漸く抬頭し始め、特に學校教職員の俸給不払問題は廣東省内に重大なる社会問題の波紋を生じ上下

### 海軍としては今日國防上何ら心配無し

#### 米内海相衆議院豫算總會で言明

(東京廿七日) 二十六日衆議院豫算總會で米内海相は「現下の世界情勢に對し海軍としては將來第三國の情勢をよく考へて遺憾なきを期するが、今日に於ては國防上何ら心配は無い」と言明し、陸相も現下の世界情勢に對し「得るやうな遺憾なきを期する準備を盡してゐる旨を述べた」

### 敵機塔乗者はソ聯飛行士

(南京廿七日) 我軍は二十五日、敵機塔乗者はソ聯飛行士と断定し、塔乗者はソ聯飛行士であると判明した

市では共產系新聞たる民族同胞と國民黨系の中山日報とが連日互に理論論争を続け、右両翼の軋轢は漸く公然化し、それによつて煙火管制の厳格化、砲撃の反蔣、反戦の叫びが飛び、連日の我が空襲は一種の神秘衰弱に陥るもの感發するに及ばず、人心は混亂の徴候漸く現はれんとしてゐる。

### 徐州の会戦切迫

(上海廿七日) 徐州会戦の切迫に伴ひ蔣介石は何十万の大軍を配備、李宗仁以下各將領は對し徐州死守の誓命を發するに及ばず、東漢線徐州に空軍根據地を新設し、日本軍の南北攻撃に備へてゐる。

### ケエンバレン首相に実行を求めた 労働党首アトリの対日制裁の主張

#### デーリーテレグラフ紙は社説で反駁

(倫敦廿六日) 二十六日倫敦各報は廿五日午後首相官邸で行はれたケエンバレン首相と労働党首アトリとの会見記事を掲載し、アトリはケエンバレン首相に「日本に對し借款クレジットを與へぬこと」「日本品の輸入を禁止する事」「軍需品の對日輸出を禁止すること」の實行を求めたを報道してゐるが、デーリーテレグラフ紙は社説に於てアトリの主張を反駁して次の如く論じてゐる。「外交政策に對する國民の各味は害有つて益無き場合多く、今回の労働団体の建言も正にこの通例である。期かる政策を採用すれば極東の事態は益々紛糾するに至らう、對日輸出禁止は産業界に於て反對されてゐる事實を差指しても全く実行性のない議論は

### 官吏制度の改革に就き 近衛首相貴院で言明

(東京廿七日) 近衛首相は二十七日の貴院本會議で官吏制度の改革に就き左の如く言明した。「改正の要は任用令を改め、出来るだけ門戸を開放、民間の有能なる士を官界に入れ、採用の方法を改め、法科才能主義を正し、且つ身分保証令を改正を加へ官界に清新な空氣を注入することは必要である。

### 貿易の全面的振興策 為替清算協定 先づ独米と締結の

(東京廿七日) 吉野商相は二十六日衆議院豫算總會で今後の貿易の全面的振興策として為替清算協定の締結を考慮中だと

### 邦人事業の復興に關し 広田外相衆議院本會議で明答す

(東京廿七日) 広田外相は二十七日の衆議院本會議で小谷商大の質問に對し「膠濟鐵道問題及山東に於ける邦人事業の復興に關し重要言明をなした」と述べた。在るは私に諒解してゐる山東に於ける今回の支那側の果敢に對しては日本は眞に遺憾を感ずるが、東部の復興に對しては、我々の責任は支那人のみならず、世界各國に於ても日本の應及が異常に度々過ぎた位は思

### 在支同胞の賠償問題 小山(兵)と外相の質疑應答

(東京廿七日) 衆議院豫算總會に於ける小山(兵)議員(民政)と広田外相の質疑應答左の如し。小山「補給茶項中の賠償金は如何なる性質のものか」と。広田外相「賠償の意味は普通は戦時賠償に關し、戦時賠償が要求する賠償の總ゆるるりを含むが、我が在支邦人が受け得る賠償金は勿論含まれてゐる。小山「政府は他國に對する賠償問題に對して如何に考慮する考へがあるか」と。広田外相「差由り在支同胞の被害及び事業の恢復に對して出来るだけの事をなすべきに思つてゐる。



話のアリガルフ

ブルガリヤ國本月十七日發表の統計によれば...

十二歳でカサド 十四歳の寡婦とあり 十五歳の離婚者多数

十三歳女十七人 男十三人 十四歳女百七十八人...

？は由理のそ

日清戦争当時

の結婚率に就ては、日清戦争の起る前の...

更に今事変では

とうのと云ふが、天津市では...

我が国の結婚

急ぐ増える

戦争ごとく

日露戦争当時

日露戦争の起るに際して...

内縁関係と私生児

御承知の如く華実上と云ふは...

CHACO

チヤコ 美人ダンサー 百五十名！

CASA NAKASHIMA

新年用カシゴオ 両カレンダリ...

自轉車大賣出し 日本製の子供用及大人用...



CONFITERIA EL ABRA LIMA 557

トリゴリーナ 一キロ五十仙

PARIS DANCING

御遊興は是非 ダンシングパリスで...

POLICLINICO DEL DOCTOR Cornejo Koster

治療卓効 費用低廉 コステル内外科医院

箱根山九世(白出版)

ラキリアム・ブリン  
ソシエベルド商会  
代理人  
グイセンテ  
シアリエーロ

和 優良球根  
各種販賣

RIVADAVIA 5871  
U. T. 63-5862

日本産家  
文化住宅 **建築**  
家具製造修理其他の御用命を願ひ  
大工指物師 **山本 玄**  
Av. del TEJAR 4817  
U. T. 741 (Florida) 3150

齒科医療の  
御相談に應じます  
日本齒科  
医学士 **山本実雄**  
應接時間 午前八時—午後十時  
市内エントレ・リオス街九七三  
カ二階、ロ一ニ三一。五四二

JUGUETERIA  
**TORRO**  
SARMIENTO 540  
U. T. 34 - Defensa, 1687

玩具御買求は  
廉價・在庫品豊富の  
**トロロ玩具店**  
日本製玩具あり  
御申込次第型録進呈

**MEDICINAL  
NEWS**  
28 - Suipacha - 28

FRANCISCO SANTERO  
EX-MECANICOS Cia. HOFFMAN

新素 **T S B** 印  
フランシヤ機械社にセン  
トリアガ製作販賣  
カライ街三三三番一  
Calle Danel 1438  
U. T. 45 - 0294

自宅出張撮影  
複写引伸し  
寫眞師 **佐藤貞則**  
市内サルタ街一五八  
U. T. 三七一五七。四

淋病梅毒 治療代は全治後頂きます  
肺結核新療法 月十ペソからの便あり  
婦人科。電気治療科  
X光線科 (各科専門医十名)  
診察料三ツソ 週午前九時—十二時  
週午後二時—八時  
日曜祭日は午前中

Ernesto Coco  
15 DE NOVIEMBRE 2335  
U. T. 28 - 2885

**ケロセン廉賣**  
永年日本人洗濯店  
並に御家庭の  
御職員を蒙つて居ります

ホフマン式フランシヤ機 は發賣以  
來十五年  
顧客間に絶大の信用を博して居ります。  
何卒定評ある本機を御使用下さい。

Hans Von Engelbrechten  
REPRESENTACIONES  
BELGRANO 525  
U. T. 34-1497 - Buenos Aires

東洋一科 **國分鉄藏**  
左記に於て齒科医療の  
御相談に應じます  
ドクトルエドアルド・キンターニヤ齒科医院  
市内エドラス街六九二、四階  
デパルタメントN 電話三三一三三〇

SEMILLERIA  
**Juan Calé & Cia.**  
CASA MATRIZ  
128 - PUEYRREDON - 128  
U. T. 47, CUYO 0065 y GUYO 0066  
COOP. TEL 1187, OESTE

Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3176  
U. T. 62, Mitre 1954-C T. 223, Oeste

Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425  
U. T. 47 Cuyo 8098-C T. 1105, Centr

琉球三味線教授  
土曜日午後二時より  
初等科  
日曜日中等科  
**安里電業**  
MOMPox 1646  
U. T. 28. B. Orden 8424

RESTAURANT  
**PAGODA**  
A. P. R. Saenz Peña 614.  
U. T. 33 - 3738

**中華樓餐室**  
雪市唯一の支那料理  
世界に誇る美味と衛生  
是非一度御試食願ひます

ホフマン式フランシヤ機  
並にカルテラの修繕取付  
一切廉價に引受けます  
ホフマン会社  
指定機械師 トリビオゴニス  
**Carlos Calvo 1159**  
U. T. 23 - 4564

SASTRERIA "TORRO"  
SARMIENTO 654  
U. T. 35, Libertad 1392

品買本位  
仕立入念  
ハナハナ  
より各種  
**トコロ  
高等  
洋服店**

二の成告加帳  
御持参のものは  
一週間致します

尾崎幸千代  
USPALLATA 812  
U. T. 23 (B. Orden) 5725

御旅館 **双葉**  
御下宿  
和洋食月極めを應じます  
皆様の御愛顧を願ひます  
**尾崎幸千代**  
USPALLATA 812  
U. T. 23 (B. Orden) 5725

### CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

**Dr. A. GODEL**

Médico Cirujano

**最新式獨乙療法**  
 淋病—根治療法  
 梅毒—六〇六号 九一四号  
 婦人病心臓胃腸 各科専門  
 肺腎臟神経系統  
 ◎日本人方には初診無料  
 X光線 テアテルミ 血液検査  
 診察日 自午前九時 至十二時  
 自午後三時 至九時  
 日曜祭日は午前中

無痛歯抜 ニベソ  
 セメント充填 五ベソ  
 金冠 拾五ベソ  
 金入歯 拾五ベソ  
 総入歯 六拾五ベソ  
 診察時間  
 午前九時より  
 午後八時まで

**DR. E. BULJEVICH**

BDO. DE IRIGOYEN 1404  
 U. T. 23 - (B. O.) 0279

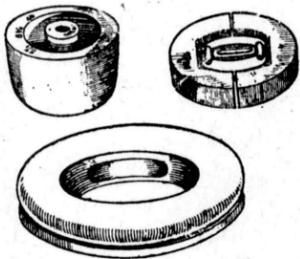
### GRAN TALLER "EL ASAHI"

de MIYAZONO Hnos.

Casa Matriz:  
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366  
 Sucursales:  
 BME: MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159  
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738  
 BUENOS AIRES  
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 46  
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

### LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントレリアの仕立の  
 上下手は型の善悪  
 に依ります。  
 仕立は上下に合わせる  
 には良い型を使はね  
 ばなりません。  
 弊工場は、テラコラカ  
 「テラコラカ」アルガラ  
 ー不変等流行型のア  
 ーりゆる型を最良の市  
 場で供給し、田舎から  
 の注文にも應じます。

### CAFE JAPONES

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市  
 内野喜吉

### KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

**M. SEITZ & Cia.**

Exposición y Venta:

DEFENSA 321  
 U. T. 33-1529

Talleres:

CHARCAS 4511  
 U. T. 71-9998

ブレンヂヤ機  
 カルデー用のケマ  
 ドレスデケロセン  
 製作販売修繕取  
 付交換引受け。  
 当方はカ、サ、ボル  
 カン以末御馴染の  
 独り人で日本人間に  
 数多の顧客を有し  
 仕事は入念迅速、電  
 話で御一報次第至  
 急参上致します。

### CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二  
 久松純雄  
 竹内武義  
 加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526 BUENOS AIRES

### Casa MALIS

DEFENSA 717  
 U. T. (33) 4382

カフェ店  
 純喫茶類の  
 御用命は弊店へ  
 サコラシコ ミン  
 黒チヤコ ミン  
 黒サコ ハン  
 上等全キキハッ



### Herrero y Magioncalda

AUTOMOVILES Y CAMIONES  
 NUEVOS Y USADOS

Reparaciones en general

La casa más acreditada entre la colectividad japonesa

### PAVON 3737

(LANUS)

U. T. 241, Lanús 793

新旧自働車  
 修繕並に販賣  
 当店は日本人諸君間に  
 絶大の信用と数多の顧  
 客を有して居ります

かまぼこの  
 御注文は村武へ  
 原料精選  
 味は良くて  
 値段は安い  
 御入用の節は電話で  
 Marcos Paz 1941 U. T. 67-4633 FLORESTA



GRAN

MERCERIA  
 Y BAZAR

Casa fundada en el año 1923

PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA

Últimas Novedades Para la Moda  
 Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

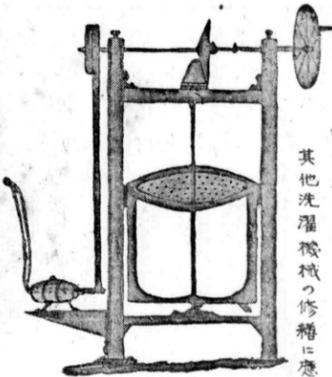
優良品  
 廉価販賣  
 呉服大物 小間物  
 雜貨 最新流行婦  
 人用品及び御家庭  
 用品一切小賣店  
 同胞に限り一割別  
 保險事務一切  
 公認代理人  
 林甚次郎

C. Pellegrini  
 1153

U. T. 41,  
 Plaza 1306

### TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



カルボンナフタ又はガス汽錘  
 乾燥機(手廻し又はモートル)  
 其他洗濯機等の修繕に應ず

## LA PRENSA BRITANICA

George Meredith, dijo que la prensa es el reflejo de la nación. La prensa británica, incluso "The Times", otrora considerada como un órgano reposado, muy respetado en todas partes, está demostrando que ella refleja la condición al parecer predestinada de la decadencia nacional, aunque puede ser que tenga la capacidad para reaccionarse antes de que sea demasiado tarde.

La opinión pública británica obligada a sostener la política del Imperio, indecisa, que defiende la integridad y prestigio, defendiendo al comunismo, los judíos y los chinos bandoleros, o está completamente ciega o ha perdido la noción del honor y de la rectitud.

La Gran Bretaña que hace diez años ha tenido que enviar fuerzas expedicionarias a Shanghai por causas del movimiento antifibritánico en China, no quiere comprender la razón del actual conflicto chino-japonés, que se ha agravado y se agravará más si Gran Bretaña, junto con los Soviets y su aliada, la Francia, le hacen creer a China que ella tiene razón, y no el Japón. El Japón ha aguantado 25 largos años de insolencia, violaciones y saqueos de partes de los chinos, a pesar de tener pruebas de que esos movimientos han sido estimulados y ayudados por los extraños que pretenden ser amigos de China, pero que en realidad quieren tener a esta hundida o sometida. La acción del Japón en el caso actual es como la policía ante una organización de criminales, que a fin de poner el orden se ve precisada a valerse de la fuerza. Si tiene conciencia el pueblo inglés, y si se da cuenta de la realidad de las cosas o si quiere comprender la verdad pura de la evolución humana, no debería tolerar o admitir las publicaciones de periódicos que lo deshonoran.

Nosotros no podemos creer que el pueblo inglés sostenga la opinión de sus diarios de hoy.

No merecen la confianza de los hombres impresos que ostentan críticas de un Winston Churchill, quien, con su astucia buscó la mano de los Estados Unidos para organizar la conferencia de Washington, sin otra mira que la de procurar de poner las vallas para la expansión del Japón, que es el mismo espíritu que bombardeó a Cantón hace cerca de un siglo a fin de obligarles a los chinos que sigan fumando el opio.

El Japón obra de una manera muy distinta. El Imperio del Sol Naciente no puede proceder de la misma manera que el Imperio del Sol Poniente. El Japón aspira dar un ejemplo al mundo llamado civilizado que nada tiene de tal, según se demuestra en la práctica, aunque son abundantes los escritos, hermosos libros y discursos o declaraciones muy sonantes que se escuchan casi diariamente.

El Japón anhela la paz más que nadie. El Japón busca de ayudar a sus hermanos del Oriente para que vivan en orden a fin de llevarlos por la senda del progreso, mientras que Gran Bretaña pretende sacar provecho de las condiciones inferiores de los orientales que viven sometidos a ella. He ahí la diferencia, y he ahí la causa de sus apreciaciones diferentes. El egoísmo británico, frente a su competidor, no ve sino enemigo; pero el Japón, considera a todos iguales, fuertes y débiles, ricos y pobres, y procura de armonizarlo todo en nombre de la humanidad y la justicia universal, y no regional o racial que son cosas de antaño.

El siglo XX, siglo del Japón, con la luz del Sol Naciente, será el siglo de luz de la humanidad, la cual emprenderá la marcha de un progreso general regida por la justicia universal, que beneficiará a todos los hombres de la tierra.

La China que tiene 400 millones de hombres, la quinta parte de la población de la tierra, no tiene por qué permanecer en situación de inferioridad para siempre.

Los hombres del Occidente que no pudieron comprender hasta ahora la verdadera aspiración del Japón, van dándose cuenta de lo grande y sublime que es su intención, aunque queden atrás, sin comprender o sin querer comprenderlo los diarios ingleses.

Si la frase de Sáenz Peña: América para la humanidad es apreciada, aunque no fué más que una frase, que no se llevó a cabo, la obra que el Japón viene realizando desde hace 80 años, tiene necesariamente que ser aplaudida y admirada por el mundo.

"The Times", dice que falta resolver muchas cosas de importancia entre el Japón y Gran Bretaña, aunque las seguridades dadas por el señor Hirota alientan a los círculos oficiales de Gran Bretaña. "Ya lo creo que quedan asuntos que resolver, pero eso corresponde mejor en boca del Japón, que está actuando en nombre del Extremo Oriente.

Podríamos empezar a examinar la guerra del opio, el bombardeo de Tientsin, la toma de Wei-Hai-Wei, el bombardeo de Satsuma, para llegar hasta la guerra comercial, calumnias del dumping social, las negociaciones del Lord Lytton, el manejo de la Liga de las Naciones, ayuda al comunismo, protección de los bandoleros chinos, estímulo al movimiento antijaponés en todo el territorio chino, venta de las balas dum-dum y gases venenosos, etcétera!

Los mismos ingleses residentes en el Japón han debido enviar notas a su propio país pidiendo reconsideración de las actitudes para con el Japón, que la prensa londinense calla, para que otros no lo sepan.

Estas líneas, si bien crudas, no están inspiradas para atacar al pueblo sano de Gran Bretaña; solo llamamos su atención para que reaccionen los que están equivocados o mal informados.

## Una nueva faz de la propaganda China contra el Japón

La habilidad China en propaganda es cosa ya reconocida. Existe además una semejanza psicológica entre chinos y europeos, que estos últimos saben explotar maravillosamente.

Es así como consiguieron ventilar en todo el mundo los chinos, informaciones fabricadas por ellos, contra el Japón, utilizando ese arte como arma de guerra, a fin de ganar la simpatía universal. El gobierno chino ha gastado y gasta en esa obra inmoral cuantiosas sumas.

Propaló, en primer término, la ilegalidad del estacionamiento de las fuerzas de la guarnición japonesa en el norte de China, que la existencia del tratado que lo admite lo desmiente.

Pretendió hacer creer que el incidente del puente de Marco Polo fué provocado o iniciado por los nipones, cuando todas las pruebas les condenan a los militares chinos apoyados por el gobierno de Nankín y los comunistas que obedecen a Moscú.

Hablaron sobre la crueldad japonesa, detallando cosas de que justamente los chinos eran autores contra los pacíficos residentes japoneses en China, que naturalmente fueron desmentidos y aclarados.

También fabricaron fotografías y cintas cinematográficas que luego las vendieron con fines de propaganda, que representaban actos inhumanos en manos de supuestos japoneses, realizados teatralmente en un establecimiento oculto en Tientsin, de los cuales se publicaron en los diarios medievales de Europa y América.

Los japoneses que sabemos distinguir la fisonomía diferente entre japoneses y chinos, no tuvieron dificultades para averiguar la verdad.

Recientemente la China en confabulación con la Liga de las Naciones, cuya mayoría actual son judíos, está tramando desacreditar moralmente al Japón, haciéndolo responsable por el aumento de negocios de los estupefacientes en China.

Un país que jamás ha tenido cuestiones de esa naturaleza, autoridades del gobierno que supieron hacer desaparecer los fumaderos de opio en Formosa y Corea desde que son sus colonias, demuestra con toda evidencia lo que puede hacer y hace con respecto a este asunto.

Las siguientes informaciones del Japón, desmenten las calumnias noticias de origen chino aparecidas en diarios de segundo orden de esta capital, que culpan al Japón de fomentar el cultivo y negocios de estupefacientes en Manchuria y en China.

**Tokio, 26.** — Una comisión de médicos que acaba de regresar del Manchoukuo ha publicado su informe relacionado con el consumo de los estupefacientes. En dicho informe se señala la disminución del uso de los mismos como consecuencia del severo control establecido desde que se instauró el nuevo régimen político en el Manchukuo este gobierno estableció el monopolio de la producción y venta de estupefacientes por parte del Estado, el que lo realiza bajo un severo control. En las tablas estadísticas que publica la comisión médico resalta el aumento del uso de los estupefacientes en las provincias chinas y especialmente en las posiciones británicas de Hong-Kong como también en Nanking y Cantón que alcanza a un 17 o/o más de lo registrado en años anteriores. La producción de heroína, cocaína y opio de China y que es superior a la del consumo mundial se cree que ha sido consentida por el mariscal Chang-Kai-Shek como fuente de recursos para hacer frente a los gastos que hacen en el extranjero de material bélico.

## FUERON DETENIDOS TRIPULANTES INGLESES

**Nagoya, 26.** — Según el diario "Shinichi", siete tripulantes del vapor inglés "Sovereign" fueron arrestados bajo la acusación de arriar y pisotear dos banderas japonesas.

## ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores catúes que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

H. KATO

Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

# PAGINA DE ACTUALIDADES

## UN JUNCO CHINO CON POLVORA Y CAÑONES FUE ABORDADO

Hong Kong, 26. — Los japoneses abordaron un junco chino cerca de la isla Lintin, próxima a aguas británicas, y confiscaron las provisiones, varias toneladas de pólvora y dos cañones.

## CHIANG-KAI-SHEK Y LOS JEFES MILITARES

Shanghai, 26. — Chiang Kai-Shek que reorganiza el ejército, enculpa a los jefes militares la derrota de sus ejércitos, juzgándolos por la corte marcial. Se conocen ya decenas de jefes y oficiales condenados entre los cuales figuran nombrados generales. Muchos han sido ya ejecutados. Chiang Kai-Shek trata de aprovechar la circunstancia para deshacerse de sus enemigos políticos, con la esperanza de consolidar su posición ya frágil, a la vez que pretende afirmar su prestigio ante el populacho con la medida severa.

## CONSEJEROS JAPONESES PARA EL GOBIERNO DE PEKIN

Tokio, 26. — El Gobierno de Japón ha concertado un convenio con el de Pekín para enviar allí algunos consejeros japoneses a fin de coordinar la cooperación política, económica y cultural entre ambos gobiernos.

## ATAQUE AEREO EN NANKIN

Nankin, 26. — A las 10.10 de la mañana de hoy se acercaron a Nankin 12 aviones militares chinos, pero al ser vistos y tiroteados por nuestras defensas que derribaron tres de ellos, el resto huyó rápidamente.

## JAPON ORGANIZARA LA RECONSTRUCCION ECONOMICA DE SHANGHAI

Tokio, 26. — El ministro de Relaciones Exteriores, señor Hirota, hablando en la Cámara de Representantes durante la sesión plenaria de Presupuesto declaró que el gobierno tenía el propósito de organizar en Shanghai, lo mismo que en el Norte de China, una empresa adecuada para la reconstrucción económica de esa región.

## UN BUQUE INGLES FUE DETENIDO Y MULTADO

Tokio, 26. — El buque mercante "Marion Moller", fué detenido el día 7 del corriente en la bahía de Tokio, en la costa donde el tráfico está prohibido para los buques extranjeros por hallarse en la zona militar, infringiendo la ley de defensa militar y la de navegación.

Investigado por los tribunales de Yokohama, el capitán fué condenado a pagar la suma de 1.500 yens en concepto de multa.

## RECHAZAN UN PROYECTO DE BOYCOT AL JAPON

Nueva York, enero 26. — "The New York Times" anuncia que el comité ejecutivo de la Federación Americana del Trabajo rechazó la proposición de boicot financiero y económico al Japón, sugerida por la Federación Internacional del Trabajo.

Mr. Green, presidente de la Federación Americana, declaró que las organizaciones del trabajo de los Estados Unidos desean aplicar lo más energicamente posible el boicot al Japón, pero no quieren adoptar una decisión que pudiera llevar a la guerra a los Estados Unidos.

Mr. Green telegrafió a Mr. Walter Citrine, en Londres, para comunicarle que consultará al gobierno estadounidense respecto a las proposiciones de la Federación Internacional, y agregando que la Federación Americana del Trabajo no considera oportuno enviar delegados a la Conferencia Mundial de Boicot que se realizará en Londres el 11 de Febrero, como lo sugirió M. Jouahux.

## LA COTIZACION DEL YEN EN TOKIO

Tokio, enero 26. — En declaraciones formuladas en la Cámara de Representantes, el ministro de Finanzas, señor Kaya, manifestó que el gobierno había decidido mantener al yen en su cotización, es decir, de 1 chelín y 2 peniques.

## LOS SOVIETS Y LA MONGOLIA EXTERIOR

Berlín, enero 26. — Según informaciones recibidas de Moscú or el diario "Voelkischer Beobachter", las conferencias celebradas en los últimos días entre los gobiernos de China y Rusia Soviética, en la capital soviética, tuvieron resultado el reconocimiento oficial de la soberanía china sobre Mongolia Exterior por parte de Moscú, abriendo Rusia a China además, otro crédito. Según el diario citado el convenio alcanzado dice que los Soviets reconocen la soberanía china sobre Mongolia, declarándose conformes con que China nombre en la capital mogola Ulan Bator a un plenipotenciario que entrará también en el gobierno de Mongolia Exterior. Los efectivos del ejército mogol, juntamente con algunos destacamentos de tropas soviéticas, serán aumentados hasta 200.000 hombres.

El crédito acordado a China por Moscú asciende a 200.000.000 de rublos para la adquisición de material de guerra destinado al ejército chino. El gobierno chino, por su parte, está dispuesto a conceder a la Unión Soviética ciertas ventajas comerciales en China. Al mismo tiempo, se reforzará el número de los instructores militares soviéticos residentes en China.

## CONSTRUCCION DE BUQUES

En el último boletín de la Sociedad de las Naciones aparecen datos relacionados con las construcciones de buques en el mundo, los cuales demuestran que el tonelaje de buques botados en el año 1937 supera en 25 o/o al de 1936, pero es inferior en 5 o/o al de 1929.

Mientras que las construcciones británicas llegan a sólo el 60 o/o de las habidas en 1929, las del Japón fueron 172 o/o mayores que las de 1929, y las norteamericanas arrojaron un aumento del 85 o/o.

## EL TIROTEO DE LA ISLA DE HAINAN

Tokio, enero 26. — Un funcionario del Ministerio de Relaciones Exteriores anunció que el embajador francés conferenció con el viceministro Horinouchi sobre la visita de un destacamento japo-

nés de desembarco en la Isla Hainan, efectuada el día 19.

El citado marino explicó que los marinos nipones que buscaban bloquear el tráfico marítimo chino, enviaron un destacamento de inspección para que desembarcase en el puerto de Yulinkan, pero las lanchas en que iban fueron tiroteadas desde la orilla. Los japoneses replicaron al fuego y lograron desbaratar un nido de ametralladoras chinas regresando luego al buque de donde habían partido.

## UN COMLOT PARA DESTRUIR UN TRANSATLANTICO JAPONES

Tokio, 25. — Con motivo del descubrimiento del complot que trató de destruir un transatlántico de la compañía Nipón Yusen Kaisha, el ministro de Relaciones Exteriores japonés ordenó a su representante consular una información al respecto. En respuesta el cónsul Nemichi de Vancouver manifestó que el cabeilla del complot tramado por varios individuos con el propósito de hacer volar el barco era Fordsaid quien murió ahogado, y sus cómplices, George y Patrick canadienses. Ralf Fordsaid fué profesor suplente de la Facultad de Agronomía en British Columbia, era conocido como un calificado clasificador de los sexos de aves de corral. Los dos cómplices penetraron subrepticamente hace tres semanas desde Vancouver a San Francisco y el día 13 llegaron a Seattle poniéndose en contacto con un apoderado chino quien les suministró los explosivos necesarios para comenzar a "terminar" con los buques japoneses, atracados en las costas pacíficas de la Unión. Este complot tenía como propósito provocar la ruptura de relaciones entre Japón y Estados Unidos. Es por esto que el Ministerio de Relaciones Exteriores le atribuye cierta importancia a la definitiva aclaración de este incidente con la comparación de las autoridades canadienses estadounidenses.

Las autoridades norteamericanas procedieron enérgicamente en la investigación de la organización secreta valiéndose para ello de la cooperación a la flota submarina.

## PROPAGANDA INMORAL DE LOS CHINOS

Tokio, 26. — Un portavoz oficial hizo la siguiente manifestación: Ciertamente nosotros los japoneses no hemos asignado a la propaganda el valor que tiene en occidente, donde la repetición de una versión, termina por sugestionar y hacer pasar por verdadero lo que es falso. Así en los últimos tiempos los publicistas de occidente parecen haber recibido esta consigna: "hay que decir que Japón es una nación militarista y China una nación pacífica a la que Japón desea allanar su soberanía. Sin embargo Japón ha mantenido en los últimos años solamente un ejército de 250.000 hombres, es tanto que China ha estado manteniendo sobre las armas 2.250.000 hombres. Las tropas personales de Chiang-Kai-Shek fueron calculadas por los observadores en 1.000.000 de hombres y para sostenerlo ha tenido que consentir en depredaciones a la soldadesca y consentir en el aumento de la producción de estupefacientes.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

Cuando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

PASAJES MUY VENTAJOSOS

Para informes dirigirse a:

**Osaka Shosen Kaisha**

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

# De los Recursos Financieros del Japón

Por G. YOSHIO SHINYA

## (Conclusión)

Con respecto al hierro y acero, su importación en 1936 fué de 200 millones; pero se espera que el Japón se bastará a sí mismo de estos artículos dentro de dos años más, pues se activan las explotaciones en el Japón propio, en Chosen y en Manchukuo. En lanas, Japón importó en el período citado, 200 millones de yens, habiendo re-exportado la suma de 50 millones en artículos fabricados. El consumo nacional está calculado en 150 millones de yens. Pero está estudiando la manera de sustituirla en lo posible con la lana artificial, cuya industria ha progresado notablemente en los años recientes. De las pulpas que actualmente se importan por un valor aproximado de 70 millones de yens, para la fabricación de papel y seda artificial, el Japón podrá tener las materias primas propias dentro de pocos años.

Luego, el Japón adquiere en el extranjero Petróleo hasta 130 millones de yens. De esto, debe admitirse, Japón depende irremediamente del extranjero. Pero la licuefacción del carbón con mezcla de alcohol y fuel oil, ha sido ensayado con éxito, aunque resulta caro por ahora. En una guerra larga, si le fuera imposible obtenerlo del exterior, puede abastecerse. Hay otros artículos que Japón necesita comprar en el exterior, tales como caucho y algunos metales; y para hacer frente a esas adquisiciones debe aumentar la producción de oro.

En estas condiciones, en resumen, una larga guerra no desmaya al Japón. Mientras que la Nación esté unida y practique la política adecuada a las circunstancias, el Japón puede soportar la guerra a largo plazo aunque se les opongan una o más naciones para agravar la situación.

El Japón controla la industria y el comercio en tiempo de guerra lo mismo que su financiación por voluntad propia, con una intervención mínima del Gobierno, lo que difiere con lo que rige en Alemania o en Italia.

Por otra parte, como lo comentara Miles W. Vaughan, corresponsal de la Agencia United Press, no ha mucho: "Desde el punto de vista económico, los japoneses dominan el 80 por ciento de las zonas más importantes de China con una población de 150 millones..." Un indicio de que la posición japonesa se ha consolidado lo constituye el hecho de que los títulos japoneses subieron un promedio de 10 puntos en la bolsa de Nueva York durante los últimos meses. Actualmente los títulos japoneses del 6, 5 por ciento con vencimiento en 1954, se cotizan al 80-1/4, contra 67-1/8 a que se cotizaba hace poco.

El señor K. Ishiyama de la revista económica The Diamond, de Tokio, estudia la situación en un trabajo titulado "El incremento fenomenal de los recursos económicos del Japón", haciendo interesantes comparaciones de las épocas de la guerra chino-japonesa, guerra ruso-japonesa y la presente.

## CONDICIONES ECONOMICAS COMPARADAS EN TIEMPOS DE GUERRA

(En miles de yens)

	Chino- Japon. 1894	Ruso- Japon. 1904	Actual 1936
Emisión moneda	129.732	201.848	1.339.945
Reserva oro	85.920	116.962	1.425.000
Depósito Bancos	111.479	751.428	13.968.000
Capitales Sociedades	249.763	887.606	16.726.667
Valor Comercio Exterior	177.970	606.638	5.725.873
Presupuesto	187.351	509.817	4.617.091

## AUMENTO DE LAS PRODUCCIONES

(En millones de yens)

Productos:	1909	1935
Agrícolas	1.600	3.083
Industriales	773	10.836
Mineros	103	504
Comerciales	—	335
Forestales	115	297
Totales	2.659	15.055

El cálculo del mismo autor hacen ascender la producción total del año 1936 a 16.000 millones de yens.

"El Japón puede gastar 20.000 millones anuales" es el título del trabajo del señor Yutaka Noda, de la Oficina de Investigaciones Económicas del mismo nombre.

En caso de guerra dice el Sr. Noda, el ahorro nacional es lo que se debe gastar primero, y, paralelo con él, una parte de las rentas han de ser movilizadas. Solamente después que estos recursos se hayan agotado se ha de recurrir a la riqueza misma de la nación; pero aún así, hay cierto límite absoluto para el consumo de ésta, porque si se excede devastará la economía nacional acarreado la nación a la ruina.

Según cálculos de un economista británico conocido, la riqueza británica antes de la guerra mundial ascendía a libras esterlinas 16.000 millones, mermándose a 13.400, después de la guerra, con la disminución de un 16 por ciento; Alemania que tuvo 375.000 millones de marcos, perdió durante la guerra, el 31 por ciento.

Según investigaciones practicadas por el Ministerio de Hacienda del Japón, las potencias beligerantes europeas han gastado en conjunto el 44 por ciento de sus riquezas nacionales, aunque, naturalmente, varía la proporción según los países.

## LO QUE GASTARON LAS PRINCIPALES POTENCIAS EN LA GUERRA MUNDIAL DE 1914-1918

	Riqueza Nacional	Lo que costó la guerra	Proporción
(Omitido: 000)			
Gran Bretaña £	16.000.000	7.463.769	46,6 %
Francia Fcos.	256.000.000	148.289.545	55,9 %
Italia Liras	100.000.000	41.852.000	41,8 %
Rusia Rublos	120.000.000	54.098.500	45,0 %
Alemania Marcos	310.000.000	139.342.342	44,9 %
Austria-Hungría Coronas	225.000.000	84.434.000	37,5 %

La riqueza nacional del Japón que según datos oficiales del año 1930 era de 110.000 millones de yens, excede actualmente de 120.000 millones, de modo que si se acepta como base el 44 por ciento de la riqueza nacional, citada más arriba para los gastos de guerra, podrá disponerse de 52.800 millones de yens para 4 años, lo que daría un gasto anual de 13.200 millones de yens.

Las mencionadas potencias tuvieron tremendas ganancias brutas anuales, de las cuales gastaron cada año un término medio de 86,9 por ciento del total. He aquí la tabla. (En sus respectivas monedas):

Países	Gcos. anuales	Gtos. de guerra	%
Francia	37.000.000.000	32.548.760.000	90,7
Italia	11.000.000.000	7.503.266.000	95,1
Rusia	15.000.000.000	13.527.150.000	90,2
Alemania	40.000.000.000	34.144.787.000	85,2
Austria Hungría	25.000.000.000	18.178.160.000	72,7
Gran Bretaña	2.300.000.000	7.756.617.600	76,4

En 1930, la renta nacional bruta del Japón ha sido de 10.600 millones de yens. La cifra actual se estima en 14.000.000.000 yens para 1936, según cálculos realizados por el Dr. Shigeyoshi Hijikata, profesor de la Universidad Imperial de Tokio. Para este cálculo han sido tomadas en cuenta

los aumentos progresivos de la riqueza y de la producción, de acuerdo con las investigaciones del ministerio de comercio e industria, así como de otras fuentes autorizadas. Otros economistas sostienen que las ganancias de la nación japonesa ascienden actualmente a 20.000 millones de yens. Pero, sobre la base del cálculo del profesor Hijikata, el Japón puede contar con 12.166 millones anuales para la guerra, la cifra que representa el 86,9 por ciento de las ganancias anuales de la nación.

En cuanto a los ahorros, según la publicación citada, Italia habría gastado en la guerra anualmente cerca de diez veces la suma que ahorra el pueblo en un año. Los otros han gastado, término medio, los cinco años de ahorros en un solo año, según la tabla siguiente:

## EN SUS RESPECTIVAS MONEDAS (EN 1000)

Países	Ahorro anual	Gtos. de Guerra	%
Gran Bretaña	37.000	1.756.176	468,3
Francia	6.000.000	32.548.760	559,0
Italia	1.800.000	10.463.000	981,2
Rusia	2.500.000	13.527.150	541,1
Alemania	6.500.000	34.144.789	525,3
Austria Hungría	4.000.000	18.178.160	454,5

No se pueden obtener cifras exactas del ahorro anual de la nación japonesa, pero el profesor Hijikata la estima alrededor del 15 por ciento de la entrada bruta, estableciéndola en 2.100 millones de yens (15 por ciento de 14.000). Basándonos sobre esta hipótesis, se puede afirmar que el Japón puede contar como minimum 11.550 millones de yens por año, que equivalen al 550 por ciento del ahorro anual.

Es evidente, en consecuencia, que sin exceder las proporciones de la última guerra mundial, el Japón puede gastar en la guerra alrededor de 13.200 millones anuales, según su capacidad de riqueza nacional; 12.100 millones según las ganancias anuales, y 11.550 millones, de acuerdo con sus ahorros. Y tomando el término medio de estas tres cifras, se llega a la conclusión de que el Japón dispone de 12.000 millones de yens anuales, y durante cuatro años consecutivos, como minimum para la guerra. Pero, considerando todos los elementos de juicio relacionados con la condición general de la economía y finanza nacional, no titubeo en declarar, dice el señor Noda, que el Japón puede gastar más de 12.000 millones de yens anuales, si se tiene en cuenta que los cálculos antes citados no incluyen para nada los recursos de Chosen, Taiwan y otras colonias del Japón. El Imperio puede costear gastos anuales de emergencia de 15.000 y hasta 20.000 millones de yens, en caso necesario.

Buenos Aires, enero de 1938.

## ACTIVIDADES MILITARES

**HongKong.** — En los alrededores de Suchow a lo largo del F. C. Lung Hai se acentúa visiblemente el ambiente belicoso. Es así como el Gobierno Nacionalista chino atribuye enorme importancia a la posición estratégica de la provincia de Hanwei, la centinela de la línea china, en donde el gobernador ha sido reemplazado por un jefe militar.

En la asamblea de Chugking se resolvió nombrar a varios caudillos militares quienes tendrán poderes políticos militares extraordinarios en reemplazo de los gobernadores que han estado frente de las provincias.

## KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO — JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shinya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 16 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

### Declaraciones del Gobierno del Japón sobre la Conferencia de Bruselas

China ha presenciado el resurgimiento y la caída de numerosos regímenes a partir de la revolución de 1912; pero su política exterior ha sido invariablemente una: el antiextranjerismo. Desde 1914, cuando el Kuomintang estableció el Gobierno Nacionalista en Cantón e hizo alianza con los comunistas con el propósito de ganar el control de la administración central, la política antiextranjera comenzó a recibir un impulso inusitado en vigor e inhumanidad; los sentimientos contra el extranjero se inflamaron vivamente entre las masas. Todavía está fresco el recuerdo de la forma en que las potencias extranjeras, unas tras otras, fueron victimadas y sufrieron depredaciones en los derechos e intereses que poseían en ese país. Sucede que el Japón ha constituido durante los últimos diez años, el principal objetivo de esa política antiextranjera de China.

No obstante, el Japón se ha esforzado siempre en promover la amistad y la cooperación entre las naciones del Asia Oriental, firmemente convencido de que en eso está la clave de la estabilidad de aquella región del mundo. El Japón acogió con simpatía la manifestación de profunda conciencia nacional china que trajo consigo la revolución, pensando que tal cosa conduciría a una íntima colaboración chino-japonesa y adoptó la política de apoyar las legítimas aspiraciones nacionales de

aquel país en cuanto fuera posible. Por ejemplo, en 1926 el Japón fué el primero en prestar su ayuda para que China recuperara la autonomía de sus aduanas y en adoptar una posición firme en favor de la abolición de la extraterritorialidad. Así cultivaba el Japón la buena voluntad de China y esperaba paciente y ansiosamente que ésta le correspondiera favorable aportando su amistad y cooperación. Sin embargo la China no dió señales de apreciar esa actitud de cordialidad; por el contrario, enarboló muy alto la bandera de su anti-japonismo y pareció resuelta a aniquilar cuantos derechos e intereses tenían constituidos los japoneses en su territorio.

El gobierno de Nanking adoptó el anti-japonismo como un arma conveniente para su política interior que consistía en atraer la opinión pública en apoyo de su régimen y recurrió a la táctica inaudita de fundar en ese propósito la educación moral tanto del ejército como de los escolares, de tal suerte que hasta los mismos pequeños y los jóvenes fueron habituados a considerar al Japón (país amigo y vecino) como un enemigo proverbial. Resultado de eso fué que el comercio pacífico y las actividades económicas del Japón se interrumpieran y que aún muchas vidas de súbditos japoneses se vieran en peligro. La campaña anti-japonesa tomó finalmente la forma de un terrorismo organizado, como lo demuestran los casos de asesinatos de marineros japoneses en Shanghai, en noviembre de 1935 y los subsecuentes ataques y homicidios a japoneses en Swatow, Chengtu, Pakhoi, Hangkow y Shanghai y el bombardeo de residencias japonesas en Chaugsha y Swatow. Ante tan alarmante situación el Gobierno Japonés permaneció tranquilo y paciente. Repetidas veces se

hicieron urgentes representaciones ante el Gobierno de Nanking para que desistiera de tan injustificables atentados.

A fines del año pasado ocurrió el incidente de Sián, en el cual Chiang-Kai-Shek fué hecho prisionero durante algunos días. Aunque las circunstancias exactas que rodearon a ese acontecimiento tan sensacional permanecen en el misterio, el hecho indiscutible es que transcurrido muy poco tiempo, los elementos comunistas que iban ganando ascendiente en el gobierno de Nanking, comenzaron a desarrollar actividades de disturbio en el Norte de China y en Manchukuo, bajo la bandera de "Vayamos contra el pueblo japonés", que condujo finalmente al incidente de Lukouhiao de 7 de julio del año en curso, en el cual los soldados japoneses fueron injustamente tiroteados por las tropas chinas en los alrededores de Peiping. Una vez ocurrido ese acontecimiento, el Gobierno del Japón deseoso de resolver en la mejor forma la crisis así motivada, planteó inmediatamente su política de no agravación y de arreglo local e hizo el mayor esfuerzo para lograr una solución amistosa, no obstante las situaciones intolerables que una vez tras otra, se venían suscitando por la malevolencia de la otra parte.

Por otro lado, el Gobierno de Nanking, violando el acuerdo de Umezu Ho, movilizó numerosas fuerzas en el Norte bajo su comando directo, amenazando a los soldados japoneses e instigó a las fuerzas locales del país en contra del Japón. De esa manera empeoró la situación hasta que el choque entre ambos países vino a ser inevitable.

(Continuará)

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3071 T. T. Buenos Aires, 904</p>	<p><b>T. NISHIZAWA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 38-8400</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</b></p> <p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores MORENO 2099 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE</b> <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PENA 989 U. T. 35-7832 3.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Copillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PERA 102 U. T. Mayo 28-2410</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 225 - U. T. 38-2088</p>	<p><b>G. KATO</b> (C. YUASA) Representante de KATO BUSAN KAISHIA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p><b>R. HARA y Cía.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 28-2438 y 8427</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores DEFENSA 882-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 35-5482</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 728 - U. T. Mayo 28-8413</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1820 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1482. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CNILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 Ser. Piso Esq. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagonas 840. - U. T. 23-4893. COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PERA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>
<p><b>N. IKEDA</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3180</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1567 - U. T. 33-7260</p>	